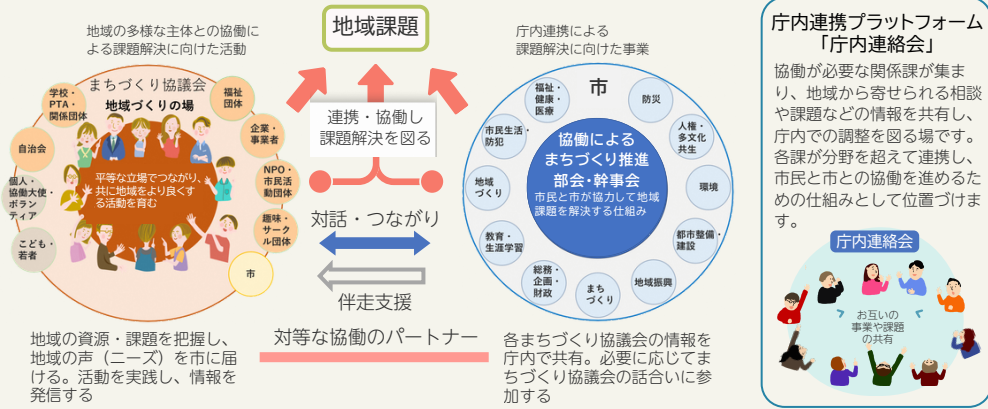


## まちづくり協議会と市の関係

### まちづくり協議会と市は対等なパートナー

地域には多様な課題があり、まちづくり協議会と市は、それぞれの立場からこれらに向き合い、活動や事業を進めています。市は、補助金の交付や拠点確保などを通じて、まちづくり協議会の取組みを伴走的に支援します。まちづくり協議会と市は、それぞれが果たすべき役割を担いながら対話を重ね、一緒に取り組めることを見つけて連携・協働する、対等なパートナーです。



# 那覇市 地域づくり推進方針

## 『ゆるやかなつながり』のある社会への みちしるべ

【概要版】  
2026年(令和8)3月 那覇市

那覇市では、世帯の少人数化や転出入の増加などの社会変化を背景に、地域課題がますます多様化・複雑化しています。これに伴い、地域のあり方や人と人とのつながりの形も変わりつつあります。これまで市では、小学校区を単位とした「小学校区まちづくり協議会」(以下「まちづくり協議会」という。)の設立・展開を進め、地域における「協働によるまちづくり」の基盤づくりに取り組んできました。

一方、地域での実践が積み重ねられる中、これからの地域づくりにおいては、まちづくり協議会という組織の維持そのものではなく、活動の質を高め、地域の力をより引き出していくことが重要な段階に入っています。そこで本方針では、誰もが自分らしく安心して暮らせる「理想の地域」の実現に向けて、市民が対話し、課題や思いを共有する「話し合いの場(プラットフォーム)」として、まちづくり協議会の役割を改めて位置づけました。



## まちづくり協議会に対する市の基本姿勢

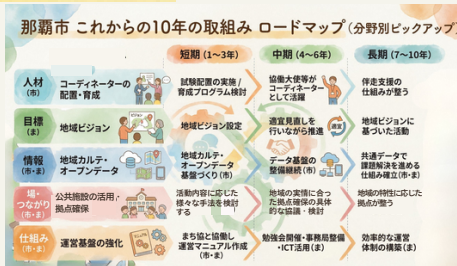
市は、まちづくり協議会や自治会をはじめ、NPO・市民活動団体、企業・事業者、個人など多様な主体が、強みを生かしながらか連携できるよう、つながりやすい環境を整えます。あわせて、地域の実情や課題を共有し、取組みが無理なく継続していくよう、地域運営を支えています。

### 4つの支援の柱

- 「ひと」を育てる**  
ともに地域を創る人材(協働人材)を育てるための研修や、若者が参加しやすい機会づくり。
- 「活動」を支える**  
市の職員がコーディネーターとして伴走。地域の状況に合わせた柔軟な補助金制度への見直し。
- 「情報」をつなぐ**  
地域の現状が見える「地域カルテ」の作成や、活動の良い事例を広くシェアするお手伝い。
- 「場所」を整える**  
学校の施設や公民館などの公共施設を活用し、皆さんが集まりやすい活動拠点の確保を一緒に考えます。

## まちづくり協議会を支える仕組みと方向性

まちづくり協議会の活動を、市民が自分たちらしく、無理なく長く続けていくためには、地域の特性や協議会の体制に応じた「地域に合った支援」が重要です。市では、まちづくり協議会の成長段階や自律の度合いに応じて寄り添いながら支える「伴走型の支援」を行い、持続可能な地域づくりを進めていきます。



## 策定のポイント

### 小学校区まちづくり協議会の 「組織の設立」から「つながりを育む」へ

地域が自律的に成長していくために、本方針では次の3つの視点転換を行います。

- (1) 「課題解決」のためにも「つながりを育む」場へ
- (2) 「組織の存続」から「ビジョンの共有」へ
- (3) 地域づくりの活動拠点確保



<b>現状の課題</b> 世帯の少人数化や転出入の増加で、ご近所同士のつながりが薄れ、地域の課題は多様化・複雑化	<b>これまでの考え</b> 「まちづくり協議会」という組織の設立・展開を重視してきた。	<b>これからの考え</b> 協議会は、誰もが安心して暮らせる「理想の地域」の実現に向けた、みんなの話し合いの場(プラットフォーム)として役割を再定義します。
---	---	--

## 方針の柔軟な運用

本方針は、市の「総合計画」や「協働の手引き」と整合を図りながら、市民と市が目指す未来像を共有し、ともに実践していくための指針です。なお、社会情勢や市民の声を的確に反映するため、おおむね5年ごとに見直しを行い、内容を更新するなど、柔軟に運用していきます。

## 「ゆるやかなつながり」のある社会

那覇市がめざすのは、市民一人ひとりが「ゆるやかなつながり」の中で安心して暮らせる社会です。この「ゆるやかなつながり」とは、義務感からの参加ではなく、「あいさつ」「趣味」「子育て」「健康づくり」など、日常の関心や楽しみをきっかけとした小さな交流を意味します。こうした「ゆるやかなつながり」の芽が地域の中で育ち、広がっていくための取組みを大切にしていきます。

### 普段から気かけ合える 関係性と仕組み



地域の中に「ゆるやかなつながり」が広がることで、暮らしに根ざした小さなコミュニティ同士が重なり合い、やがて地域全体に「つながりの網」が形づくられていきます。この網があることで、市民同士が身近な変化に気づきやすくなり、制度や組織だけでは把握しにくい課題にも、早い段階で対応することが可能となります。

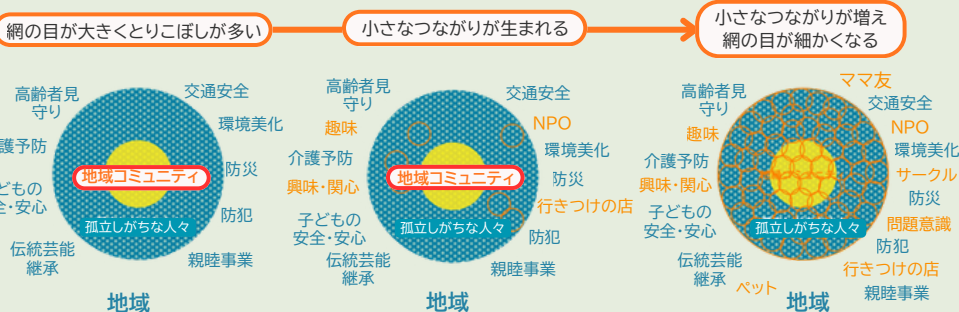
「ゆるやかなつながり」は、分野や立場を超えて支え合う「地域共生社会」を実現するための大切な土壌となります。多様な人々による「ゆるやかな関係性」が地域に広がることで、市民一人ひとりが「ウェルビーイング（心身ともに満たされた状態）」を実感しながら暮らし、必要なときには地域の中で支え合える環境づくりを進めています。

制度や分野の縦割りを超え、多様な主体が参画し、世代や分野を越えて人がつながる取組みを通じて、那覇市は「地域共生社会」の実現をめざします。

### ■社会状況の変化に応じた「新しい地域のつながり」イメージ

(NPO法人 地域サポートわかさ 理事兼事務局長 / 那覇市若狭公民館 館長 宮城 潤氏 「地域におけるゆるやかなつながり」講演資料等より)

自治会加入率 15%の場合  
一つの組織では、拾えない声が多い状態



## 小学校区まちづくり協議会とは

### 「地域づくりの場(プラットフォーム)」

まちづくり協議会は、「ゆるやかなつながりのある社会」を実現するための、地域づくりの場(プラットフォーム)です。自治会、NPO・市民活動団体、企業・事業者、個人、市など、多様な主体が関わり、それぞれの思いや活動を共有しながら、協力して地域づくりを進めていきます。地域のつながりを育み、課題解決に向けた協働の土壌をつくっていくことが、まちづくり協議会の大きな役割です。

また、まちづくり協議会は、人や団体をつなぐ「地域のつなぎ役」であると同時に、自ら地域の課題解決に取り組む「実践の担い手」でもあります。地域には目的や関心ごとに応じた多様なコミュニティがありますが、まちづくり協議会は、地域に暮らすすべての市民を対象とし、誰もが関わりを持てる共通の土台として機能する点が特徴です。



地域づくりのプラットフォームである「まちづくり協議会」には、次の3つの要素があります。これらが歯車のように噛み合い、循環することで、活動の輪が自然に広がり、地域全体の活力へとつながっていきます。

**話し合い・対話の場**

年齢や立場に関係なく、多様な人が対等な立場で集まり、地域の思いやアイデアを自由に分かち合う。

**3つの要素**

- (1) 話し合い・対話の場
- (2) つながる・つなげる場
- (3) 協働の場

**つながる・つなげる場**

「こんなことしたい」という点と点をつなぎ、新たな出会いを生み出す。一人ではできないことも仲間と支え合うことで可能にする。

**協働の場**

対話でつながった人たちが、互いの得意なこと(特性)を活かし、足りない部分を補い合いながら、ともに実践(アクション)していく。

※協議会の立ち上げは、地域の主体的な発意によりはじまり、運営においても自律的に取り組みます。  
※多様な主体は任意でまちづくり協議会に関わります。

## 市民のまちづくり協議会への関わり方

### 参加の形は自由。ライフステージに応じた関わり方

地域には、多様な市民が暮らしています。地域の課題や魅力に気づき、それを自分ごととして捉えながら、主体的にボランティアとして地域活動や市民活動に関わる人がいます。まちづくり協議会への関わりは、そうした関わり方の一つです。

- (1) 誰もがまちづくり協議会に参加できる
- (2) 市民の力を活かす
- (3) 市民のまちづくり協議会への多様な関わり

